

今年度の入学者選考結果は下記の通りとなりました。

概況

募集定員	20
志願者数	41
合格者数	34
合格者平均点 (5 教科 250 点満点)	168.8
受検者平均点 (5 教科 250 点満点)	163.2

※志願者に青翔開智中学校からの内部進学者は含みません。

※合格者平均点・受検者平均点は「学力検査」の結果に基づくものです。

実際の合否は、学力検査・面接検査（個人面接・書類審査 [資格・検定取得者優遇]）を合わせた総合判定です。

学力検査 詳細

科目／配点	国語／50	数学／50	社会／50	英語／50	理科／50	合計／150
受検者最高点	42	39	44	47	47	204
受検者最低点	16	13	18	22	16	109
受検者平均点	30.9	25.3	33.2	36.4	37.4	163.2

※上記は平成 31 年 1 月 18 日（金）実施の「学力検査」結果に基づく数値です。

出題方針

今年度から各教科で新傾向問題を出題しています。これまでと同様に、論理的思考力を問うことはもちろん、新たに創造的思考力を試す内容を加えています。また、近年の大学入試改革を踏まえ、問題文の長文化も新たな傾向です。決められた時間内に問題文を読み解いて答えを導いたり、知識を組み合わせる新しい答えを創造したり、という一連の流れを意識して学習に取り組みましょう。

国 語

国語の入試問題は、鳥取県の県立高校入試と同じ構成で作問しています。ただし、設問は新テストを意識して記述問題に重点を置いた問題を多めに出版しました。最後の作文も含め、問いが要求しているとおりの内容で、過不足なく解答できているかを見ていますが、全体的に選択問題に時間が割かれていたように感じます。探究論文の作成にも資料を正しく読み取りまとめる力は不可欠です。第三者の添削を必ず受け、しっかりと記述力をつけてほしいと考えています。

数 学

大問 6 題の構成で、全体的にボリューム感のある出題でした。与えられた情報から必要な条件を抜き出したり、数量関係を明らかにして考えを進めたりと、数学的思考力を問う内容になっています。問題文を読み解くための時間配分にも注意が必要です。また、【問題 6】では「単位」に注目し、その定義や有用性を踏まえて、新たな単位を創造・提案する問題を出題しました。日頃当たり前だと感じている事象に疑問を抱き、新たな課題を発見していくプロセスを数学の中にも見出して欲しいと考えています。

社 会

昨年同様、地理・歴史・公民全分野からの出題となります。全体通して資料の読み取りが中心となり、幅広い知識を活用させて解かなければなりません。新傾向の【問題4】では「旗」をテーマとし、旗に込められた工夫を読み解き、自ら創造し、論理的に説明する力を問いました。全体を通して暗記だけに頼らない「大きな視点・流れ」を意識して学習することが大切です。

英 語

英語の入試問題は、県立高校入試に準じた構成で作問しています。基礎的な文法知識・語彙力・読解能力を身につけていることが大切です。また、最後の英作文の問題は、正確な文法とスペル、そして提示した文字数で答えられるかを見ています。与えられた条件以外は自由に設定をしても良いことから、柔軟な発想力も必要になります。日常生活に関しても、英語で自由に表現出来るよう努めて欲しいと考えています。

理 科

全8題を出題し、各分野から幅広く出題しました。【問題1】から【問題7】は中学校理科で学習する内容について、基本的な知識を問う問題に加え、実験の操作や結果から答えを導き出す問題を多く出題しました。また【問題8】では、与えられた条件から、多様な答えが存在する中から、最良の答えを自ら提案する問題を出題しています。中学校の理科で学習した内容を活用することはもちろん、新たな情報を組み合わせることも必要となります。さらに、その答えを図示し、説明することで、表現力を問うことも意図しています。単純な知識の蓄積だけでなくそれを活用する問題を多く出題しました。